

令和4年度（2022年度）「学校版環境ISOへの取組」好事例紹介

義務教育課

【小学校の取組】

| 管内 | 学校名 | 特徴的な取組（概要） |
|-----|-----------------|---|
| 熊本市 | 熊本市立高橋小学校 | 「できることをみんなで」を合言葉に児童も職員も宣言項目を設定し、「たかはし運動」を核とした活動を行っている。毎週全児童・全職員で「グリーンタイム」として緑の活動（一人一鉢や草取り等）を行い、「人権の花」やJRC活動にも取り組んでいる。これらの緑化活動は児童の主体的な姿勢へとつながり、植物の成長を喜びと感じられるほど、意識も高まっている。このように、年間を通じて見直しをもって取り組むことで、環境整備にも成果が表れてきている。 |
| | 熊本市立託麻東小学校 | 児童会の委員会活動の組織を活かしながら教職員・PTAと共に、学校版環境ISOの活動を行っている。具体的には、「節電のための緑のカーテン」、「スイッチの切り忘れ0運動」、「ごみ削減に向けた紙リサイクル段ボール回収やペーパーレス化」等である。また、児童による節電、節水、掃除用具の使い方等の呼びかけも充実している。その他にも土のリサイクルや「緑の少年団」によって環境に対する意識を高めることができている。 |
| 山鹿市 | 山鹿市立菊鹿小学校 | 児童会（環境委員会）が中心となり、今年度は、これまでの取組をSDGsの視点（「住み続けられるまちづくり」など）からとらえ直して取り組んでいる。これまでと同じような取組であっても、そこに新しい価値付けをすることで、より主体的、積極的に参加することができている。また、保護者や地域住民、中学校との協働活動もあり、地域を巻き込んだ取組も充実している。 |
| 宇城 | 美里町立励徳小学校 | 児童と職員どちらも、宣言項目の1つ1つに対して、熱心に取り組んでいる。環境学習では、児童の主体的な学びが重視されており、校内だけでなく、地域の人と共に取り組むことで、町全体の環境にも関心をもたせている。また、定期的にISO宣言に沿った「節約意識調査」を実施し、調査結果をもとに今後の取組についての見直しがされている。 |
| 玉名 | 玉名市立豊水小学校 | 生活環境委員会を中心に児童宣言を決め、地域の清掃やPTAリサイクル活動、老人会との合同花苗植え等、地域・保護者と連携した取組を行っている。定期的に環境ISO週間を設定され、生活環境委員会による環境ISOチェックのもと、児童が活動を振り返り、環境に対する意識を高めている。また、月ごとに電気・水道の使用量が記録され、昨年度より使用量削減を実現している。 |
| 菊池 | 菊池市立七城小学校 | 各委員会で環境に関する宣言項目を考え、その項目の目標達成に向けて、委員会活動や授業で全校児童が取り組んでいる。学校版環境ISO宣言を利用頻度の高い場所に掲示したり、節電・節水を呼び掛けるキャラクターを水道や電気スイッチの近くに貼ったりしながら啓発を行っている。また、年度の早い時期にSDGsの講話等を利用して環境への関心を高めることで、それぞれの取組に対する意欲や効果を高めることができている。 |
| 阿蘇 | 南阿蘇村立 久木野小学校 | 学校活動の中で、様々な委員会を通して、環境保全につながる取組を行っている。特に、環境美化委員会による「服の力プロジェクト」では、SDGsの観点から、環境と貧困を関連付け、校内や家庭に積極的に周知しようとする児童の行動が定着している。また、地域ボランティアやPTA等と連携した取組を継続的に行うなど、五者が連携した学校版環境ISOの実践を積み重ねている。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 上益城 | 甲佐町立龍野小学校 | <p>児童一人あたりの具体的なゴミの減量目標を掲げ、その達成に向けて各教室にリサイクルボックスを設置し、学校全体で紙ゴミの減量や再利用に取り組んでいる。その結果、本年度は多い月で一人あたり平均173gとゴミの減量に成功している。</p> <p>また、環境委員会を中心に、環境問題への意識を高める絵本の読み聞かせやペットボトルキャップの回収の呼びかけなど、児童の主体的な活動が続いている。</p> |
| 八代 | 八代市立植柳小学校 | <p>委員会活動でアルミ缶や新聞紙の回収を行ったり、毎週金曜日の放課後、児童が「エコレンジャー隊」と称し「水道の蛇口が閉まっているか」「電気・エアコンの消し忘れがないか」について全ての教室を回り確認したりするなど、自主的、実践的な活動の様子が見られる。</p> <p>これらの取組の結果、昨年度と比べ（12月末時点）ゴミ袋の使用量、電気の使用量の削減がなされており、顕著な成果が上がっている。</p> |
| | 八代市立金剛小学校 | <p>各教科や特別活動の学習と関連付けながら、環境ISOへの多様な取組が展開されている。中でも、山江村の小学校の児童と一緒に、球磨川周辺の清掃活動や山江村での植樹活動を行う「海山プロジェクト」の実施など、充実した体験活動が実践されている。これらの取組の結果、児童及び教職員の環境に対する意識が高まっている。</p> |
| 芦北 | 水俣市立水東小学校 | <p>情報・環境委員会が中心となり環境美化に関する目標を設定し全校児童に呼びかけ、清掃活動、節水・節電、栽培活動等を行っている。PDCAサイクルに基づき、各学年の行動目標の達成状況を調査し、児童集会で報告をし、各学級で振り返りを行っている。また、独自に「SDGsタイム」を設け、栽培活動や環境学習を行うことで、児童の関心や意欲の向上につなげている。</p> |
| | 津奈木町立津奈木小学校 | <p>昨年度の反省を踏まえ、学校版環境ISOの宣言項目を設定し、取組の重要性についても理由を示しながら全校児童に周知している。</p> <p>また、プラマークと廃プラの具体例を示したポスターをゴミ箱周辺に貼ったり、分別の方法を分かりやすく児童に見せたりする工夫を行った。これにより、宣言5項目の中でも特にゴミ分別において廃プラのゴミ箱に燃えるゴミが混ざっていることが減り、成果が見られた。</p> |
| 球磨 | 球磨村立一勝地小学校 | <p>児童の意識を大切にしながら継続的な取組に向け、昨年度の宣言項目について意識調査を行い、課題を明確にした上で、「ごみ減量」と「環境美化」に重点的に取り組んでいる。</p> <p>ごみ減量では、昨年度の取組を見直し、ごみの計量と記録を委員会ではなく各学級で行うことで、ごみの減量への意識が高まった。また、従来からの活動である「緑の少年団」と関連付けて「一人一鉢運動」「草むしり大会」「クリーン作戦」を進め、児童の環境美化への関心を高めた。</p> |
| 天草 | 天草市立本渡南小学校 | <p>児童や教職員の宣言項目や数値目標を、児童にも分かるような言葉で具体的に設定し、環境委員会が中心となり日々の給食時間や掃除時間に放送により周知を行うことで、意識づけの徹底が行われている。</p> <p>また、全家庭と連携した「ペットボトルキャップ回収事業」や地元工業高校と連携した「服のリサイクル活動」などを実施することで、家庭・地域を巻き込んだ学校総体としての取組が図られている。</p> |
| | 上天草市立中南小学校 | <p>環境・安全委員会を中心に、学校全体で環境に対する意識が高まるよう、工夫・改善しながら活動に取り組んでいる。特に、個人目標を児童自らが設定し、決めた項目に沿って活動することで、地域でのごみ拾いをする児童が増えるなど、学校外でも活動する姿が見られるようになった。自分ができることに積極的に取り組むことで、落し物の減少や節電・節水にも効果を表している。</p> |

【中学校の取組】

| 管内 | 学校名 | 特徴的な取組（概要） |
|-----|-------------|---|
| 熊本市 | 熊本市立武蔵中学校 | 生徒と教師の協議により宣言内容を検討し、「紙のリサイクルボックス」「動植物園の職員による出前講座」「QRコードによる樹木検索システム」「さわやかふるさとデー（登校時のごみ拾い）」等の具体的な活動に取り組んでいる。学校長による講話や学校便りでの呼びかけ、生徒主体の取組など学校全体で取り組んでいることが分かる。また、校内緑化を計画的に実行することで、常に花が咲く環境を実現し、地域住民にも好評を得ている。 |
| | 熊本市立清水中学校 | 取組構想図を掲げることで、着実に活動の広がりを見せている。アルミ缶・古紙・ペットボトル回収、掃除時間の節水・節電、無言掃除を継続し、「5つの心」を磨いている。これらすべてが生徒の主体的な活動となっており、更なる向上を目指して生徒自らが振り返りと改善に取り組んでいる。また、全校生徒が関わる活動を目指して、学級花壇クラスマッチという企画にも新たに挑戦しているところである。 |
| 山鹿市 | 山鹿市立鹿北中学校 | 昨年度に続き、環境ISOをSDGsと関連付け、「持続可能な地球を鹿北から」という視点で取り組んでいる。毎年同じ内容ではなく、その年の生徒会が前年度の取組を基に新たに計画、実行することで、取組の進化、深化がみられる。その内容を「鹿北中版SDGs」としてまとめ、学校内だけでなく、保護者や地域住民に発信し啓発していることも「持続可能な地球を鹿北から」が表れている取組である。 |
| 宇城 | 宇土市立鶴城中学校 | 宣言においては、前年度の項目を見直し、全生徒、全職員で無理なく無駄なく継続できる具体的な内容になっている。また、生徒会を中心に、各委員会と連携し、達成状況の放送やクラスマッチ形式を取り入れるなど、生徒が主体となった活動に、継続的に取り組んでいる。特に、ごみの種類として一番多い紙類について、裏紙にしたり資源ごみにしたりして削減に努めている。 |
| 玉名 | 玉名市立玉南中学校 | 環境ボランティア委員会を中心に、縦割り掃除やアルミ缶のリサイクル、花植えの活動に数値目標を掲げて、学校全体で取り組んでいる。 職員室内の用紙の分別を細かくしたり、分かりやすいようにラベリングしたりと、全職員で無理なく取り組めるよう工夫されている。電気・水道の使用量が昨年度よりも減少している。 |
| 菊池 | 菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 | 生徒の数値目標が具体的である。はがき回収は環境委員会と生徒会役員、コンタクトレンズのケースの回収は保健委員会、緑化活動は園芸委員会が行っており、学校全体で環境問題について取り組んでいる。 また、はがき回収等は課題があるが、次年度に向けて回収の仕方や呼びかけ方法を改善策として取り組む予定であり、更なる効果を目指して取り組もうとしている。 |
| 上益城 | 嘉島町立嘉島中学校 | 生徒は「バケツ1杯の水で掃除」「コップ1杯の水で歯磨き」など具体的で意識しやすい項目に取り組んでいる。職員は、印刷室に紙の分別コーナーを設け、紙の無駄をなくし、再利用を進めている。また、会議資料等のペーパーレス化に全職員で取り組んでいる。 その結果、生徒、職員の意識が高まり、本年度は下水使用量が17%減、電気使用量が5%減と効果が表れている。 |

| | | |
|----|-------------------------|--|
| 八代 | 八代市立第四中学校 | 委員会活動を中心に、古紙回収や残食ゼロ、ペットボトルキャップ集めなど、生徒が主体となった活動が実践されている。特に、ペットボトルキャップ集めについては、地域の企業と連動した取組が行われており、目標として掲げた数値を大幅に上回るペットボトルキャップを回収することができた。その結果、本校は当該企業から表彰を受けており、この取組を通して、生徒は社会に奉仕することの充実感を味わうことができた。 |
| | 氷川町及び八代市中学校組合立 氷川中学校 | 昨年から引き続き、紙の消費量の減量化や節電・節水のための具体的な行動が示され、学校全体が一体となった取組が定着している。 生徒主体による「環境リサイクルマッチ」と題したペットボトルキャップの回収により、環境美化活動の促進と意識の向上に繋がっている。校内に環境コーナーを設置し、毎月の電気や水道の使用量を視覚化することで、生徒の意識向上に努めている。 |
| 芦北 | 水俣市立袋中学校 | 設定した目標と記録の間に課題を見つけ活動の見直しを行い、PDCAサイクルに基づいた継続的な取組を実施している。毎月のISOのチェック結果を生徒の動線を意識して掲示することで、意欲の向上につなげている。また、課題解決に向けて放送だけでなく、オンラインを活用して呼びかけを行うなど、コロナ禍の中でもできることを考えて取り組むこともできた。 |
| 球磨 | 人吉市立第三中学校 | 生徒及び職員の宣言事項に、SDGsの視点を取り入れている。省エネルギーのための取組では、空調の集中管理により各教室の温度を必要以上に上げ下げしないよう固定することで節電を図っている。地域清掃活動では、活動を通して集めた予想以上のごみの多さを目の当たりにし、環境保全の大切さを再確認することができた。 また、SDGsをテーマに学習した内容を、文化祭で発表し保護者や地域に向けての啓発も行っている。 |
| 天草 | 天草市立本渡中学校 | 前年度の反省をもとに、生徒会組織の改編や宣言項目の修正を行ったうえで、全生徒が通行するホールでの宣言書の掲示や結果の報告等、十分な意識化が図られている。 また、水道使用量や電気使用量に加え、エアコンガス使用量に基づく空調利用状況の把握など、様々な視点で節約状況を可視化し、全生徒が利用するホールに掲示することで、生徒の意識化が図られている。 |
| | 苓北町立苓北中学校 | 奇数月に全校生徒を対象に「学校版ISOチェック」を行い、その結果を数値化して周知することを継続した。 また、環境美化委委員会の企画において、美化コンクールをクラスマッチ形式で行い、学校全体で環境美化を意識することができた。更に、地域の清掃活動への参加により、地域の一員であることの自覚や環境美化への意識が高まっている。地道な取組を継続することで、生徒の意識や態度の変容が見られている。 |

【義務教育学校の取組】

| | | |
|----|----------|--|
| 阿蘇 | 産山村立産山学園 | 環境委員会の学園生を中心に据え、年間を通して宣言項目を周知徹底し、学校全体で環境問題に継続的に取り組んでいる。独自教科「うぶやま学」では、地域の資源や人材を大いに活用した学習を展開することで、環境保全や環境問題に主体的に関わるための工夫を行っている。 学園生だけでなく職員も、ICTを効果的に活用しながら、取組の進捗状況を可視化するなど、達成度を具体的に確認したり次への活動に活かしたりするサイクルをつくっている。 |
|----|----------|--|